

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	変革を迎えている自動車業界での三菱ふそうの事業、働く環境について
調査日	2021年10月27日(水) 11:00~12:30
調査先	三菱ふそうトラック・バス株式会社
担当教員身分・氏名	助教 ドウマヤス・アリヤン
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生6名、2年生6名
調査趣旨・目的	自動車業界の現状、三菱ふそうトラック・バス株式会社の事業と働く環境、インターンについてご説明を聞き、質疑応答を行う。
調査結果	<p>三菱ふそうトラック・バス株式会社の人事本部小島和海氏と、インターン中であるヨウエツミン氏から、オンラインにてお話を伺った。主な内容は変革期を迎えている自動車業界の大枠について、そしてその中での三菱ふそうトラック・バス株式会社の概要、働く環境とインターンの情報についてであった。</p> <p>まず三菱ふそうトラック・バス株式会社の主な製品である商用車には、事業主を支援すること、物流管理、安全で効率的な交通の三つの大きな目的がある。そして C.A.S.E と言われる自動車業界のトレンドがあり、これは Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric を意味しており、三菱ふそうトラック・バスはこの中でも Electric に強い。三菱ふそうトラック・バスはダイムラーグループの一員であり、同グループの他の企業と開発や人事など幅広く協力合っているそう。また、国際的な企業になったのは 2005 年だが、企業の歴史自体は 90 年あり、強力な国内のネットワークも武器の一つである。さらにふそうは 170 か国以上にあり、三菱ふそうトラック・バスは本社の 25% の従業員は外国人という多様な企業である。また三菱ふそうトラック・バスでは製品の企画から販売後のサポートまでバリューチェーンを網羅しているという点も特徴としてあげられる。</p> <p>次に働き方の一番の特徴はスーパーフレックススタイルで、週 3 日以上在宅勤務という Mobile Work 2.0 という制度を導入している。これはコロナウイルスの流行前から行っており、働き方改革のパイオニアとして認知されているそう。上司と年間ターゲットを設定してトレーニングを受けたり、年齢にかかわらずその人の希望に合わせてキャリア形成したりする機会も用意されている。前述した在宅勤務ができるようなサポートやジムや幼稚園など様々な施設も用意されているのも魅力的な点である。また、誰かが失敗しても責めずに受け入れる企業文化があり、原因だけを追究して次回に活かすそう。入社するにあたって身に付けてほしいスキルは学習、パイオニア精神、価値の共創、敏捷性の 4 点である。中でもパイ</p>

オニア精神に関しては会社内でのリーダーとしての意識だけではなく、業界全体をこの会社でリードしていきたいという意思を持ってほしいようだ。

インターンをしているヨウエツミン氏からは三菱ふそうトラック・バスは上司もフレンドリーで、オープンでリラックスしたとても良い雰囲気であると聞いた。インターン生も社員と同じように働くためとてもやりがいがあり、社内は英語のやり取りが多いため英語でのメールの書き方なども学べるそうだ。インターン申し込みの方法やリンク先も送っていただき、訪問全体を通してとても良い機会になった。



中央大学の「C」マークをするご対応者様と参加者